

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www12.plala.or.jp/hokjioka/> →変更:www.hokjioka.net E-mail : codmokan@agate.plala.or.jp

支援会員・寄金 3,000円 (年額)
*会員には、本通言を配布します。



《写真説明》12月17日
「教育大実習」in 余市村
ハウス戸外で冰雪ツリー。牛乳パック
600個の氷ブロック+電飾を製作

INDEX

- P1: 巻頭言～p8に続く
P2: ヒューマンイラスト/
スクール動向、会費納入、他
p3: 教育レポート「教育改革…」
p4-5 ↓ (自治体研究所寄稿)
p6: スクール～2学期の通知表
p7: ↓ 「成長の記録」
p8: p1 続き、カンダー、他
* **年次会費のお願い**

「鈴木秀一先生を偲んで」 北海道民間教育研究団体連絡協議会 会長 三上 勝夫

道民教の創立と発展に尽力された鈴木秀一先生が2015年2月26日にご逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします。

鈴木先生は、その包容力の大きさから、多くの民間教育研究団体の仲間に慕われ、研究運動の扇の要となってこられました。先生ご自身は、教科研、作文の会などの会員として、菊地大さん、三上敏夫さんなどと国語の教育研究・授業づくりを課題として研究をご指導なさっておられました。歴教協の山下国幸さん、井上司さん、数教協/古川常光さん、科教協/荒川弘さん、全生研/川上信夫さん、ソ教研/武田正直さん、早川典宏さんなど多くの研究者・実践家のみなさんとの厚い交友を通じて、道民教の人間的な結束を作り上げていかれたと思われまふ。先生は、その深い学識により、みなさんに多くの示唆を提供されつつ、何よりもみなさんの話を聞き、その良さを指摘し称えるという人間技をいかに発揮して、運動を盛り上げておられました。この人間力は歴代の事務局担当者達に引き継がれ、各団体や個人を結んで、これほど長く道民教運動を継続できた原動力となっています。

鈴木先生は、戦後まもなく、郷里山形から東大に進み、当時、教育学の基本枠組みを構築し、世界水準(それ以上)に押し上げるために奮闘していた宗像、勝田、大田ら各氏の薫陶を受け、いわば第二世代の役割を託されました。堀尾さんらがさらに精緻な理論化を担ったのに対し、鈴木先生は、教育学を実証の学高めようと努力しました。先生は、いま各国の教育者が注目している授業研究という分野を打ち立てた功労者のお一人です。この研究の出発点は、先生や小田切正さんが少壮の研究者として大活躍した津別、常呂、尾去沢などでの五大学共同研究でした。これは日本の教育研究史に語り告がれる快挙でした。さらに先生は、授業研究の実証性と有効性をいっそう高めるために、思い切った策を講じます。(8ページに続く)

[注:筆者は本NPO会員で文教大学教授、道民教会長を務められています。機関誌「みんきょう」131号掲載文を筆者承諾を得て転載しました。一部分量調整。尚3/4に鈴木研究/教授学を継承する「特別シンポジウム」が北大で開催されます→p8記載]